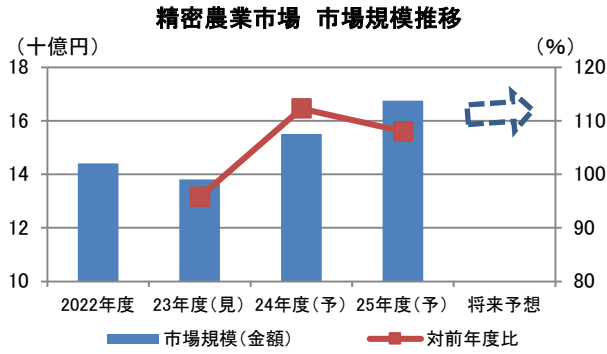


業界アウトライン

・農林水産省「令和5年農業構造動態調査結果」によると、全国の農業経営体数は92.9万経営体（対前年比95.3%）で減少したが、「データを活用した農業を行っている農業経営体数」は24.2万経営体（対前年比106.8%）で増加した。

注目市場

精密農業市場



※出典 矢野経済研究所

■市場環境

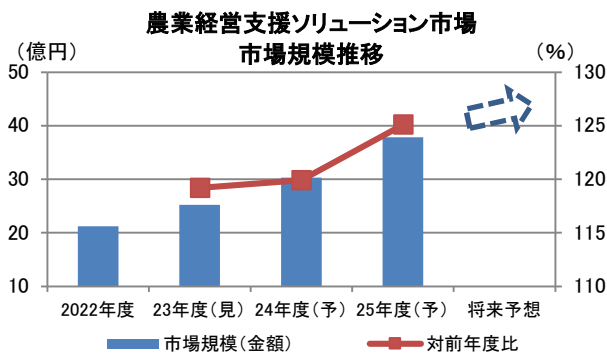
- ・2023年度の精密農業市場規模は、138億6百万円（対前年度比95.8%）と見込まれる。
- ・同市場は、農機の自動運転化に必要なGPSガイダンス・自動操舵装置、ロボット農機システム、衛星情報を活用したシステムなどを対象としている。
- ・高齢化による農家の相次ぐ離農や、食料の多くを海外からの輸入に頼っている現状など、国内の農業には大きな課題が存在しており、精密農業は課題解決手法の1つとして注目されている。

■業界動向／事業者動向

- ・GPSガイダンス・自動操舵装置は、国内出荷台数の大半が北海道であったが、本州でも農機の自動運転を可能にする通信インフラ整備が始まり、農地データの3次元化と高精度の位置情報が活用可能になるため、本州に多い勾配地の田畑や小規模の圃場でも、精密農業で自動走行が可能となる見込みである。
- ・ロボット農機システムは、農機の有人機と無人機による協調作業システムであるレベル2のロボット農機が北海道や本州の大規模生産者に普及し始めており、農機メーカーでは、現在、世界に先駆けた複数台の協調作業システムや遠隔監視による無人状態でのレベル3の自動走行の実証が進められている。

注目市場

農業経営支援ソリューション市場



※出典 矢野経済研究所

■市場環境

- ・2023年度の同市場規模は、25億23百万円（対前年度比119.2%）と見込まれる。
- ・同市場は、農業向け会計ソフト、農業法人向け会計支援サービス、気象データなどを利用した経営支援サービスなどを対象としている。
- ・同市場では、農業法人からシステム料金を徴収するケースは基本的に少なく、金融機関や保険会社、農業法人向けのコンサル会社を中心とみられる。

■業界動向／事業者動向

- ・同市場では、2023年10月から実施されたインボイス制度により、農協や卸売市場が仲介している委託販売を除き、直接農産物を実需者に販売している場合は対応が必要になることから、現在インボイスに対応した会計ソフトの販売が拡大しており、今後数年は同市場を牽引するとみられる。
- ・同市場は、今後、収穫予測・需要予測・リスク予測を中核としたソリューションや、気象予測サービス等が金融機関に普及することで拡大が見込まれるほか、将来的には、農機・ドローンで取得した生育状況、収穫量等のデータを活用した農業向けファイナンス等のソリューションも登場するとみられる。